

福岡県の神社

アクロス福岡文化誌6

海鳥社

はじめに

アクロス福岡文化誌編纂委員会

先人たちが築いてきた文化遺産や風土——“ふるさとの宝物”を再発見し、後世に伝えていくことを目的に刊行してきた「アクロス福岡文化誌」シリーズも、通算五巻目となりました。第五巻は「町並み」というテーマで、福岡県内に残る伝統的な町並みの歴史や魅力を総覧します。

福岡は古来より交通の要衝で、人や文物が盛んに往来し、そこに成立した集落を拠点に各種産業、地域社会が発達してきました。本書では県内の町並みを、その成り立ちから「武家の町」「商家の町」「門前の町」などと分け、町の歴史や文化、見所となる家並みや歴史的建造物などを紹介します。

執筆は様々なかたちで町並み保存やまちづくりに携わつておられる方々にお願いし、地域に密着した内容や情

報を盛り込んでいただきました。取材にご協力いただいた方々、写真や資料をご提供くださった機関・団体など、関係各位のお力添えに心よりお礼申し上げます。

近年、歴史的建造物や町並みの保存運動、それらを巡る町歩きが盛んになっています。時代の風雪を経て形成・継承された伝統的な町並みには、その地域ならではの風土と人々の営みが奏でる魅力があり、その地を初めて訪れる者にも、懐かしさや安らぎを感じさせてくれます。本書では、歴史的な町割り、伝統的建造物が比較的濃密に残る地区を中心に取り上げましたが、福岡県内にはそれ以外にも様々な個性や味わいがある町並みが存在します。本書が、皆さんのが住む町の魅力を再発見するきっかけとなれば幸いです。

末尾になりますが、本書の企画段階からご尽力いただいておりました宮本雅明先生（九州大学名誉教授）が、本書の完成を見ないまま、不慮の事故で急逝されました。この場を借りて、先生のご冥福をお祈りします。

はじめに 00

総説 神々の成立と福岡県の神社 00

福岡のお宮

香椎宮／筥崎宮／住吉神社／櫛田神社

志賀海神社／志式神社／那珂八幡宮

部木八幡神社／日吉神社／歌替天満宮

警固神社／鳥飼八幡宮／老松神社

野芥柳田神社／紅葉八幡宮／猿田彦神社

鷺尾愛宕神社／飯盛神社／白鬚神社

太宰府天満宮／竈門神社／王城神社

二日市八幡宮／御自作天満宮／筑紫神社

春日神社／現人神社／平野神社

コラム・神社を歩く 00

宗像・糟屋のお宮

00

北九州・豊前のお宮

00

高倉神社／岡湊神社／宗像大社／八所宮
織幡神社／宮地嶽神社／波折宮

守母神社／伊野天照皇大神宮／太祖神社
宇美八幡宮

コラム・海の道を司る神々 00

大富神社／国玉神社／八幡古表神社
風治八幡神社／香春神社／英彦山神宮
コラム・藩主ゆかりの神社 00

00

糸島のお宮

00

鎮懐石八幡宮／桜井神社／可也神社

六所神社／志登神社／染井神社

高祖神社／細石神社／雉琴神社

コラム・神社図鑑 00

朝倉のお宮

00

大己貴神社／中津屋神社／五玉神社

須賀神社／恵蘇八幡宮／美奈宣神社

上秋月八幡宮／垂裕神社／岩屋神社

コラム・神功皇后ゆかりの神社 00

Contents

目次

嘉穂・直鞍のお宮

大分八幡宮／椿八幡宮／綱分八幡宮

曩祖八幡宮／撃鼓神社／天道神社

老松神社／大根地神社／厳島神社

鮎神社／馬見神社／北斗宮／多賀神社

鳥野神社／六嶽神社／天照神社

若宮八幡宮

コラム・鯰伝説の神社 00

筑後のお宮

高良大社／水天宮／大善寺玉垂宮

風水神社／五穀神社／北野天滿宮

月読神社／須佐能袁神社／吉木若宮八幡宮

賀茂神社／素盞鳴神社／媛神社

御勢大靈石神社／隼鷹神社／老松神社

大中臣神社／水田天満宮／熊野神社

福島八幡宮／八女津媛神社／風浪宮

鷹尾神社／三柱神社／沖端水天宮

日吉神社／宮原天満宮／藤田天満宮

乙富神社

より詳しく知るための参考文献案内

00

〔凡例〕

*本文中の神名の表記は、基本的に各神社の表記に倣い、各自治体史なども参考にしました。なお、旧字は常用漢字に改め、ルビ（振り仮名）は現代仮名遣いで表記しています。

*人物の敬称は略しましたが、それが祭神を指す場合には「公」を付しています。

*祭りや行事は一般的な名称を用いているため、文化財の登録名称とは異なる場合があります。



福津市・宮地嶽神社（木下陽一氏撮影）

だざいぶとんまんぐう

太宰府天満宮

菅公が眠る
天神信仰の聖地

篤い信仰を集める天神さま

学問の神様として全国に知られる太宰府天満宮は、天神さま、すなわち菅原道真公（菅公）を祀る神社である。

菅公は、延喜三（九〇三）年、大宰府の謫居で亡くなつた。二年後、墓所の上に門弟・味酒安行が御廟を建立したのが太宰府天満宮の創始といわれ、御廟所の真上が現在の御本殿である。

一方、菅公の死後、京の都では疫病が流行つたり、天変地異が続いたり、菅公を無実の罪で追い落とした政敵・藤原時平一派が御所で雷に打たれて無残な最期を遂げたりした。真しやかに

菅公の怨霊が囁かれ、御神託によつて京にも菅公が祀られた（北野天満宮）。時代を経るごとに天神様は、多くの御神徳が崇められ信仰されている。

菅公は、当代随一の学者として高名だつたことから、学問の神様として崇敬された。文道、和歌、連歌、書道、芸能など、数多の学問的な御神徳が認められた。またその生涯から、正義の神、誠心の神、弱者救済の神、慈悲の神など、様々な御神徳が信じられ、朝廷、貴族、武士、町人、村人など、朝らゆる人々から篤い信仰を集めた。

菅公が永遠に眠る天神信仰の聖地として、太宰府天満宮は、一一〇〇年前から名にしおう靈験あらたかなパワー

スポットなのである。

菅公の御神徳を慕い崇めて、多くの歴史上の人物も太宰府天満宮を訪れている。天神信仰の痕跡は、時空を超えて



御本殿と飛梅。飛梅は菅公を慕って、一夜にして京から飛んできたという伝説を持つ

て境内のどこかしこに残されていて、枚挙にいとまがない。

桃山時代の豪壯華麗な建築である御

本殿（重要文化財）は、小早川隆景の寄進。

楼門は、もとは石田三成の寄進。他にも国の天然記念物に指定されている境内の樟、九州最古といわれる中世

の石鳥居（県指定有形文化財）、志賀社（重要文化財）等々。加えて宝物殿には、国宝『翰苑』を始め、天満宮の歴史や天神信仰を物語る多くの貴重な文化財や宝物が展示されている。

古の大宰府文化を今に伝える祭り

一月七日に行われる鬼すべ（県指定



上：国指定天然記念物の大樟

下：神幸式大祭（お上りの儀）。

奥は榎社。天満宮から榎社までの道は、鐘と太鼓の音にちなみ「どんかん道」ともいわれる

無形民俗文化財）は豪壯な火祭りで、一年間に亘った嘘を誠に替え難を逃れるという「うそ替え」も同日に行われる。三月第一日曜日には曲水の宴が、

四月二十日・十一月二十日には天神さまに季節の御衣を奉る更衣祭が行われ

る。五月二十一日から二十五日にかけて九月二十一日から二十五日にかけて

は、神幸式大祭（県指定無形民俗文化財）。菅公の配所だった榎社まで、天神さまを乗せた神輿が時代行列しながら神幸する。榎社では童女の倭舞が、還りついで御本殿では竹の曲（県指定無形民俗文化財）が奉納される。二十九日夜には、心字池におよそ千の灯明

が灯され、池に特設された舞台で神楽が舞われる千灯明があり、見る者を幻想の世界へと誘う。

今も息づく天神伝説

太宰府天満宮や太宰府地域には多くの天神伝説が残る。御本殿の右手にある梅は、菅公を慕つて京から飛んできただ伝説を持つ飛梅。また太宰府名物としてお土産の定番・梅ヶ枝餅も、地元のお婆さんが配所の菅公に差し入れしたものに由来する。天神さまや天神信仰にまつわる伝説は、太宰府天満宮のみならず、太宰府の歴史や文化により一層の彩りを添えて、今なお人々を魅了し続いている。

「村田

所在地	太宰府市宰府四一七一
主祭神	菅原道真公
メモ	現在宮司邸となっている延寿王院には、幕末・八月十八日の政変で都落ちした三条実美以下五卿が滞在した。坂本龍馬ら多くの勤皇の志士がここを訪れ、維新に向けて密議を交わした。

宗像大社

国家神として崇められた
すべての道を司る神

の三宮を総称して宗像大社という。

朝廷から篤く崇敬された三女神

『古事記』『日本書紀』の神話にある、
天照大神と素戔嗚尊との誓約によつて誕生した田心姫神・杵島姫神・市

杵島姫神の三女神を祀る神社である。
この宗像三女神は、天照大神から

「汝三神、宜しく道中に降居して、天孫を助け奉りて、天孫に祭かれよ」

との神勅を受け、北部九州から朝鮮半島に至る海北道の要衝に鎮座したと伝えられる。北から沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、九州本土・宗像市田島の辺津宮に、それぞれ田心姫神、湍津姫神、市杵島姫神が配祀されている。こ

海の正倉院・沖ノ島

辺津宮



境内の遺跡として神社の歴史的価値を高めたのは、沖ノ島の祭祀遺跡である。昭和二十九年からの三次にわたる調査によつて、巨岩群と、その周辺に所在する祭祀遺跡の実態が明らかになった。遺跡は四世紀後半から九世紀末まで、五百年にわたる祭祀の跡を示す遺構と遺物であり、遺物としては鏡や鉄製品、半島系馬具、金製指輪、龍頭、唐三彩など海外との交流を示す品々、形代や紡織具など律令国家に至るものである。

過程で整備されていった神祇祭祀の様相を示すものなどがあり、一括国宝に指定されている。このような交流を示す品々やその規模から、沖ノ島の祭祀

遺跡を「海の正倉院」とも称している。大島の御嶽山山頂からも最近、沖ノ島の祭祀遺跡の最後の時期に相当する露天祭祀のものと同様の遺物が確認され、田島の辺津宮の下高宮周辺からも同時期のものが確認されていることから、記紀に書かれている三女神の三宮への配祀が、考古学的見地からも証明されつつある。

連綿と受け継がれる威風

宗像神を奉斎した宗像氏は古代の有力氏族であり、神郡である宗像郡の大領でもあった。後に宗像

らも同時期のものが確認されていることから、記紀に書かれている三女神の三宮への配祀が、考古学的見地からも証明されつつある。

中世に数多くあつた神事は、大宮司家の断絶により神社が衰微したことと、江戸期の神道を中心とした神事への変換により少なくなったが、戦後、中世の御長手神事を再興した「みあれ祭」の海上神幸は勇壮な宗像海人族の姿を彷彿させるものである。

なお、三宮の境内は国指定史跡であり、沖ノ島の原始林は国指定天然記念物にもなっている。辺津宮の本殿・拝殿は重要文化財、中津宮本殿は県指定有形文化財となっている。

磯村



上：沖ノ島／左：沖ノ島出土の金銅製龍頭
(上) と金製指輪 (以上、宗像大社提供)

所在地	宗像市田島・大島・沖ノ島
主祭神	田心姫神・湍津姫神・市杵島姫神
メモ	神宝館では国宝である沖ノ島出土品が展示されている。また中世宗像大宮司の活躍を物語る阿弥陀経石、狛犬や古文書なども展示されている。

神社図鑑



◀**狛犬（こまいぬ）**
神前を守り、魔除けとなる神獣。左右一対で設置される。神社によっては、狛犬の代わりに狐や猿などの神使が置かれているところもある。



▶**神使（しんし）**

眷属（けんぞく）ともいう。一般に、神に付き従う小神、神意を伝える使いとされる。伊勢神宮の鶴、八幡宮の鳩、稻荷社の狐、天満宮・天神社の牛、日吉社・山王社の猿が有名であるが、他にも兔、鹿、蛇、龍、亀などがある。



◀**注連縄（しめなわ）**
稻藁を編んだ縄に紙垂（しで）を垂らし、社殿や斎場、神木などに張ったもの。神聖な場所とそれ以外の結界を示す。正月に家庭に飾る注連飾りは、簡略化あるいは装飾化されたものである。



◀**鈴（すず）**
涼やかな音で神を呼び寄せる、あるいは神に参詣を知らせる意味がある。

▶**賽銭箱（さいせんばこ）**
賽銭は米や農水産物を神前に供える神饌（しんせん）に由来し、貨幣経済が発達するとともに錢貨を奉納するようになった。





◆絵馬（えま）

かつて神の乗り物である馬（神馬）を奉納していたことに由来する。生き馬は高価なため、平安時代頃から、馬形の板に彩色した板立馬や、馬を描いた板で代用するようになったという。現在は、馬に限らず様々な絵が描かれ、さらにそれぞれの願いを書いて奉納するのが一般的である。



▲玉串（たまぐし）

榦など常緑樹の小枝に紙垂（しで）を結びつけたもので、神事の際、参詣者や神職が神前に捧げる。玉串を捧げ拝礼する儀式を玉串奉奠（ほうてん）という。

▼おみくじ

元来は重要事を決める際にくじを引いて神意を問う占いの一種。現在は参詣者が個人的な運勢を占う形が浸透している。



▲神札（しんさつ）

神符ともいう。神社が発行する護符で、身につけたり各家庭で祀ったりして神の御加護や除災を願う。一般に、身につけ持ち歩くものを「お守り」、神棚や床の間に祀ったり、玄関や門前に貼ったりするものを「お札」という。

左の写真は災厄除けのため玄関に貼られたお札。



►汐井（しおい）

潮井とも書く。神社に参詣する前に海や川の水で身を清める禊ぎに由来する。現在は海や川の砂を採ってきて奉納したり、参詣者の清めに使ったりする。海水そのものを汐井とする地域もある。



執筆者
一覽

写真撮影者一覧（数字は写真掲載ページ）

森 弘子（福岡県文化財保護審議会専門委員）

佐々木哲哉（元福岡県文化財保護審議会委員）

村田真理（元太宰府天満宮文化研究所）

森久実子（ムロヒロコ）

高瀨美作子（詩人・民俗研究家）

機村幸男（福岡県全画：地域振興部世界遺産室）

加藤哲也（財界九州社編集委員）

清原倫子
（九州国立博物館展示課）

富田孝浩（北九州市教育委員会生）

恒遠俊輔（求菩提資料館館長）

竹川克幸（日本経済大学講師）

半田隆夫（九州共立大学講師）

吉田洋一（外留米力学文学部准教授）

川原敏明	斎藤英章	55	153	127	118	93	左	58	24			
左	左	41	150	下	上	上	71	26	28			
右	左	右	151	51	144	下	60	30	30			
中	中	70	117	下	下	120	61	31	31			
右	右	128	151	78	1	94	64	33	33			
右	右	80	153	128	1	148	65	34	34			
上	右	45	83	94	19	131	53	35	13			
上	左	8	153	左	上	122	54	35	15			
左	左	50	141	100	21	139	66	36	20			
左	左	39	149	上	123	98	67	36	20			
上	上	89	150	140	124	下	68	下	下			
上	上	51	145	102	40	上	78	上	上			
右	中	90	147	40	右	113	79	79	79			
右	中	52	152	142	125	上	91	91	91			
上	右	93	147	104	47	下	92	80	80			
下	左	40	143	上	中	中	88	下	下			
下	中	52	143	右	上	中	68	下	下			
須佐弘美	吉田洋一	半田隆夫	中村康也	富田孝浩	加藤哲也	高瀬信一郎	佐々木哲哉	龜崎敦司	水野哲雄	森弘子	竹川克幸	佐藤恭敏
上	上	上	上	上	上	上	46	44	32	23	12	12
上	上	111	111	105	101	69	53	下	38	下	134	134
下	下	138	133	113	102	71	右	下	37	上	137	137
下	下	139	148	114	106	103	72	下	126	上	140	140
下	下	141	148	115	107	104	右	130	56	下	152	152
右	右	右	155	108	108	左	109	84	39	下	84	85
							110	41	41	左		

■ アクロス福岡文化誌編纂委員会

会長 武野要子（福岡大学名誉教授）

副会長 西表宏（香蘭女子短期大学教授）

監事 徳重忠彦（福岡県新社会推進部県民文化スポーツ課）

委員 飯田昌生（元テレビ西日本・VSQプロデューサー）

池邊元明（福岡県教育庁総務部文化財保護課）

加藤哲也（財界九州社編集委員）

河村哲夫（福岡県文化団体連合会専務理事）

木下陽一（写真家）

嶋村初吉（西日本新聞社編集局）

専門調査員 竹川克幸（麻生西日本新聞TNC文化サークル事務局長）

事務局長 岡野弘幸（財団法人アクロス福岡事業部長）

事務局 緒方淑子（財団法人アクロス福岡）

中野有紀子（同右）

アクロス福岡文化誌6 福岡県の神社

二〇一二年三月三十一日 第一刷発行

編者 アクロス福岡文化誌編纂委員会

発行所 アクロス福岡文化誌編纂委員会

〒八一〇一〇〇〇一

福岡市中央区天神一丁目一番一号

電話〇九一二（七二五）九一一五

FAX〇九二（七二五）九一〇二

<http://www.across.or.jp>

発売 有限会社海鳥社

〒八一〇一〇〇七二

福岡市中央区長浜三丁目一番一六号

電話〇九一二（七七一）〇一三二一

FAX〇九二（七七一）一五四六

印刷・製本 大村印刷株式会社

ISBN 978-4878415-80-98

<http://www.kaitoshaf.co.jp>

〔定価は表紙カバーに表示〕